

融像巾幅の検査 (大型弱視鏡による方法)



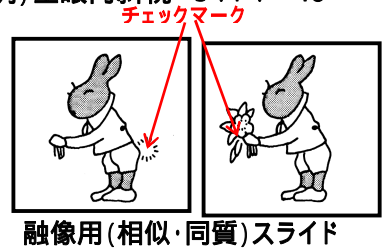
目的 視線をあらゆる位置に動かして両眼単一視する力をみる検査、すなわち幅のある同時視、運動性融像(感覚性融像含む)の検査

準備物 大型弱視鏡・被検者が融像可能と推測される最も小さいサイズの融像用(相似・同質)スライド 例)左眼内斜視 S.P. +15°

同時視の検査後、融像用スライドを使って **チェックマーク**が消えるか、**2つ**になったらすぐに合図するようにデモンストレーションしてから、融像用スライドを入れる



同質図形だよ！通常同質図形なので、合致した S.P. の大きさのものは理論上、融像できるはず。

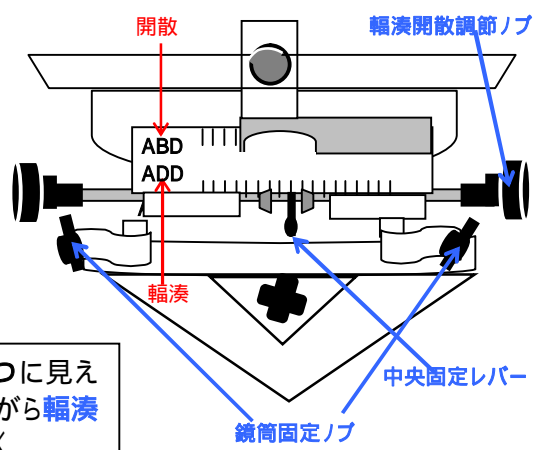


中央固定レバーを上げてはらずし、輻湊開散ノブの ABD を回して 0° にし左右に動かして中央の固定レバーの位置でロックする

両アームを動かし S.P. (ここを基点とする)で鏡筒固定ノブをロックする



S.P. を半分に分けて振り分けた角度でロックする場合もある。



NO

図形が同時に1つに見え、両眼の**チェックマーク**があるか？

YES

S.P. で重ならない場合、アームを少し前後して重なる位置を捜す。その場合基点の位置を記入すること。

被検者の両眼の角膜反射が中央にあるかをよく見ること。又、交代視にも注意！幼児の場合、言葉かけによって幅がかなり違ってくるので頑張るように声かけをすること。

抑制の有無の確認！
チェックマークが消えたり又は図形が2つに見えたりしないかを常に被検者に問いかけながら輻湊開散ノブを少しずつ開散側へ動かしてゆく

例) **5°** でチェックマークが消えた！又は図形が**2つ**になった！

その輻湊開散目盛の ABD 側の目盛りが **開散側の終末度数(単位は度又は・符号は-)**

少し戻して融像させてから再トライして再現性をみること！

アームが開散した実測値を読み取る場合もある。

中央固定レバーをはずし、同様に ADD を 0° にし中央の固定レバーをロックしアームを基点に戻し鏡筒固定ノブもロックし、**チェックマーク**が消えたり、又は**図形が2つ**に見える位置まで、同様に輻湊開散ノブを輻湊側へ動かす



開散と同様にチェック！！視標がぼけたり小さくなると被検者が言えば、確実に融像している証拠！(輻湊による調節が働く為)

例) **20°** でチェックマークが消えた！又は図形が**2つ**になった！

その時の輻湊開散目盛の ADD 側の目盛りが **輻湊側の終末度数(単位は度又は・符号は+)**

アームが輻湊した実測値を読み取って記入する場合もある。

融像(-)

開散側を - 符号、輻湊側を + 符号で表し、合計したものが融像幅

融像恐怖、交代視、抑制なのかななどの見え方を記載しておくこと。

検査可能な最も小さい図形など様々な条件下での測定すること！

判定基準)

視能学増補版 P178 P336
正常範囲: -4° ~ +20°
 眼科検査法ハンドブック第3版 P115
 (水平) -4 ~ 6° ~ +20 ~ 25°
 (上下) 1 ~ 2, 5°
 (回旋) 6 ~ 10°
 視能矯正マニュアル P141
 遠心性 11.5° 求心性 8.4°
 内方回旋 > 外方回旋

記載例)

Synopt R-fix (sc)
 O.A. +19°
 S.P. (-) L - supp プスライド(車と車庫)
 Fu. (-)例) L - supp (基点 O.A.にて)
 (±)例) +17°で合致感のみあり
 プスライド(ウサギ)

Synopt R-fix (sc)
 O.A. -19°
 S.P. (+) -19° Fスライド(金魚と金魚鉢)
 Fu. (+) -5° ~ +20° (基点 S.P.)
 Fスライド(ねずみ)
 実測値で読み取った場合 -24° ~ +1°



自分の結果を書いておこう！

が(-)であってもFu.は同質図形であるので(+)の場合もある。融像するが、すぐにチェックマークが消えたり維持できない場合は通常(±)とし、用いた視標と理由を記載する。視能学 P336 より

開散側と輻湊側の目盛りを合計したものが融像幅で、基点の位置とスライドの大きさと図形の名称の記入を忘れないこと！(サイズが同じ図形でも難易度が違う場合もある)